

特44

727

新日清交戰三  
版子ヤシ征伐號

帝國萬年

粹  
通  
珍  
歌

和  
快  
絶

靜弘堂藏版

074395-000-8

特44-727

日清交戰大和魂 3号

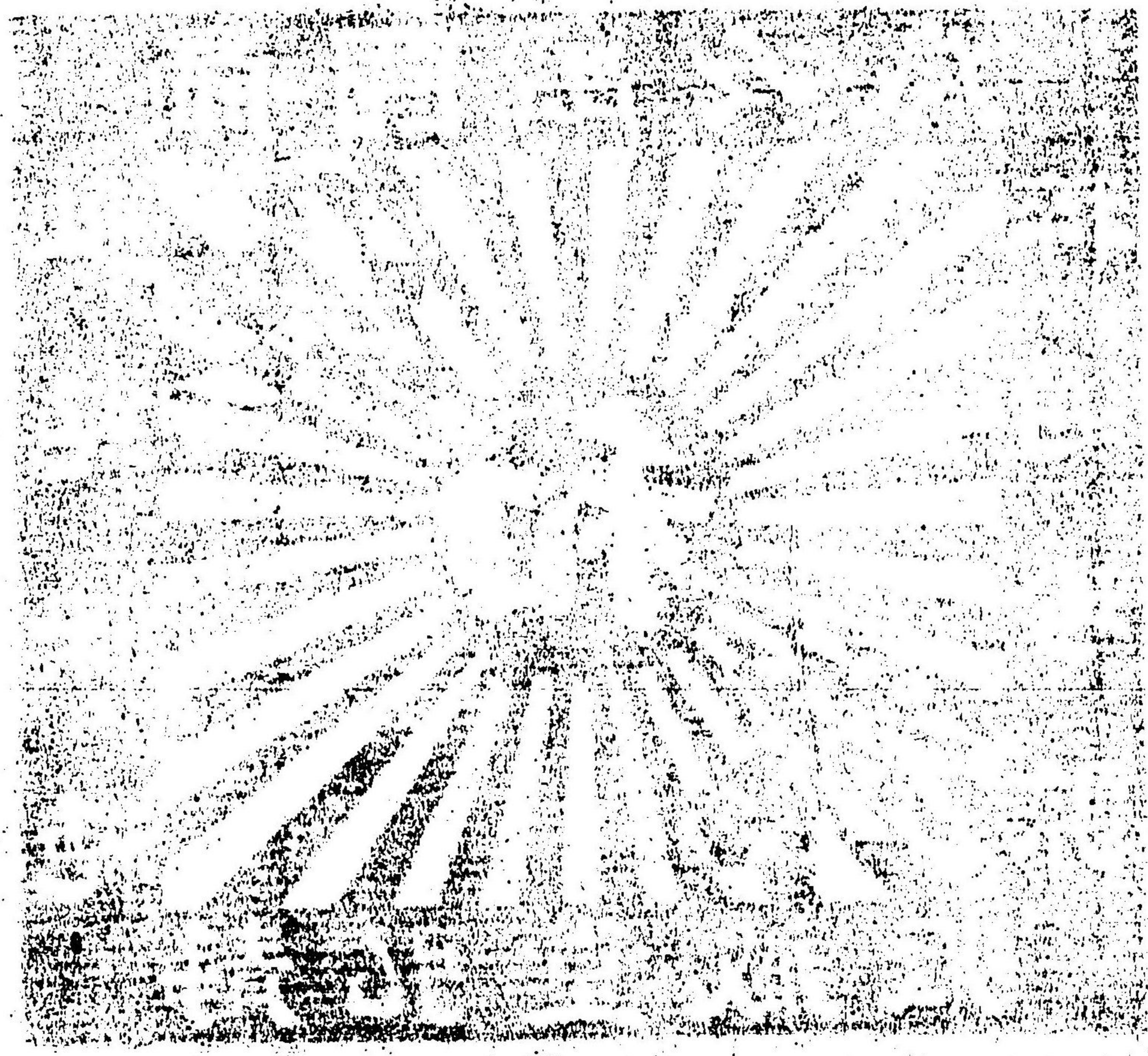
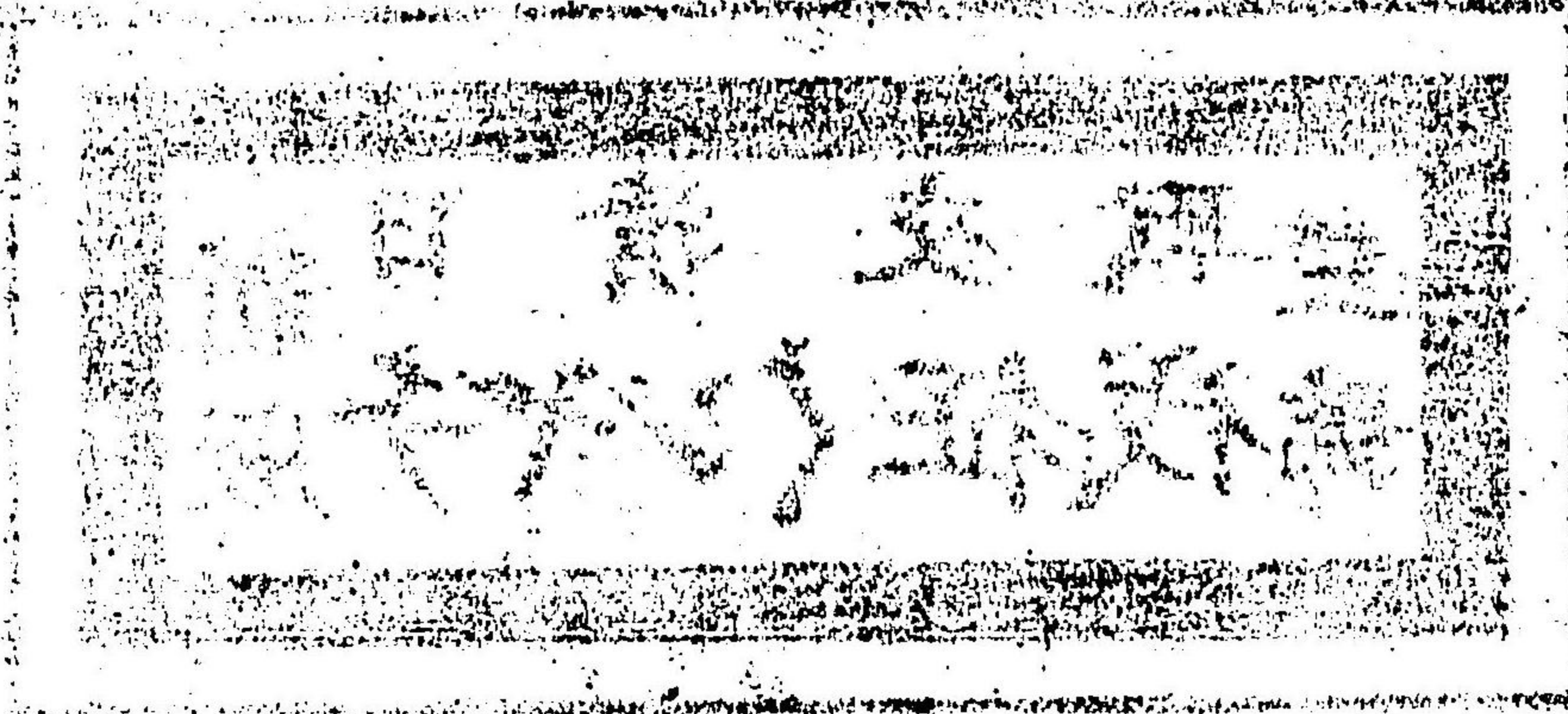
靜弘堂

M28

CEI-1647



特44  
727



# 日清戦争大和魂 目錄

端歌の部

春雨替歌

夕暮替歌

紀伊の國替歌

忍ぶ戀踏替歌

綱は上意替歌

松づくし替歌

度々逸の部

十九歌

キビスガンく替歌

二歌



縁いんかいな替歌

九歌

義ぎ太夫だゆうさわりの部

泣あま顔か日記に佐世保宿屋させほしゆくやの段だん

支那しな姿すがた女にょ類似るい衣い李鴻章りこうしやうなげきの場ば

菅原すがはら傳授手でんじゆて習鑑寺ならいかい子屋こやの段だん

大津おほつ繪ゑの部

大つよおほつよ武士ぶし三歌

本丁子ほんぢやう淺あさくどもの部 四歌

### 端歌はたの部

春雨はるさめ替歌かひた

戦たたかひにすつぱりまける支那しなの兵へい刃は風かぜするどき日本刀にほんとう  
いかで勝かてよふ道みちもなく小供こどもでさへも一筋ひとすぢに御國みくに思おも  
ひの氣きわ一つ妾めかけしや内職ないしやく主ぬしは兵へいうしてれ金澤山かねざくさんでき  
たならサア義献ぎけんしよでわないかいなサアサ愉快ゆきわいじや  
ないかいな

夕暮ゆふぐれ替歌かひた

曉天あかつきに流ながれ亂みだせし安城渡敵あんじよとてきの多勢たせいを松崎氏まつさきしほまれの  
名なをば殘のここすぞへアレ攻めせかくる関せきのこい皇國みくにに勇ゆう

士が有るわいな

紀伊の國替歌

支那の國は海洋島の沖合に戦ひたるのは日清艦支那  
艦十四艘大合戦さて大砲に當りてはたまる物かや沈  
没し何れも戦ひ負どうし勝には剛氣な日本船心も赤  
城の艦長が指揮は勇まし討死には覺悟で眞先眞黒な  
煙炮の中をば進まれて功をなしたる日本魂

忍ぶ戀路替歌

支那の兵士は扱て果かなさよ何ん度負けても意氣地  
無汚す名前も惜しまずに其影隠と武士の耻

綱は上意替歌

支那は上意を蒙りて王徳城をぞ守りける折柄朝霧深  
き四方より大砲の覗をひつ定め打落さんとドット發  
砲支那は聞ゆる弱虫にて又降參の旗を立てよしやれ  
ゆるしやれお城が落るお城落るわ厭いはせぬがたつ  
た一ツの命毛の無く成わく鴨綠江まで逃ねばなら  
ぬろれを討たんすぬしや氣が強い待たしやいく人  
じや無い者豚じや者軍器も兵糧もなつちもいらぬサ  
アサ持てけしよつてけ

松づくし替歌

討てよ懲せよ支那の兵一番目には豊島沖二番目には  
成歡で三番目には牙山討つ四番目には黄州で五番目  
には平壤や六ツ昔しは行長がせめたる所の王徳城も  
僅の間に占領し七番目には北進して八番目には海洋  
島九ツ此所に海戦は十でとうとう支那の艦此艦は弱  
虫にて情無程大砲に當て沈む七艘や又いつ何日の合  
戦の日を待時待つ兵士らは勇み勇んで力を籠め居る  
勢を見さいな

## 度々逸の部

○日清事件と時計の針

カツタ勝たど進み行く

○大國自慢の天狗はよして

少しや折らんせ其鼻を

○豚尾頭へ両手でさがり

ぶらんと運動して見たい

○鐵砲かつへて行く手にすがり

太閤記「悲しさ隠す笑い顔随分御手柄高名して

主の歸國を待つわいな

○陸じや追われる海でわ沈む

支那じやなるまい此苦勞

○永くかゝると追ねばならぬ

志るつチャンく附てから

○疵を受ければ阿片の種の

脂を吹出す芥子坊主

○紳士紳商心お耻よ

車夫でも義献の金を出す

○敵の弾丸なに負ふものぞ

切て彼等の首を負ふ

○李鴻章とてあの居姿わ

繪にもかゝれぬ阿果顔

○袖の永いわれか支那きもの

うれじや日本の手も出まい

○尻に帆かけて逃ゆく弱さ

初手から敗北支那のふね

○君に命をさそげし銃の

先をあらうふ大和だま

○大手くく金銀すてと

北京詰とは心地よ

○花も美事よ香りも高し

支那へ廣げる菊畑

○嘘と泣のが上手な計り

ホンニ手もない支那もない

○威海れ世話を日本に焼せ

今じや火芥子の手も出羽へ

○何の漢のと云はずにれ負け

四百の直打もない支那さ

○のぼる朝日の御旗を先に

はれて凱歌をうたふ兵

### キビスガンく替歌

國の爲假令屍わ野に晒すとも恥を晒さぬ日本膽日々

にドンくいかい戦争近來稀なる大勝利日本軍人

萬々歳でめつほをかへにエライく愉快じやオマ

ヘンカ大きに御苦勞さん

金の爲つどひ集るアノ豚尾兵攻りや忽地負け戦シキ

ニどんくいかいやぶれ金穀兵器も捨て逃げ日本

兵にわかなわんかいな大べらほの意氣地なし弱い

ぢやオマヘンカれときはごかりさん

### 緑かいな替歌

光り輝く日の本の武運も開く榮城へ勇んで首尾よく

上陸をしたのわ二師團軍かへな

國の爲めにわ身命も投げ打つ日本の愛國者渡る朝鮮  
支那の國乗取る北京の城かいな  
威海旅順の砲臺も今は難無く打敗り進んで攻める海  
軍が乗取る渤海わんかいな  
かくまで強い日本とはれ氣が付かれぬ李鴻章今わ我  
身の置處も泣に泣かれぬ仕義となり實に面目ないか  
いな  
支那の軍艦二十艘船艦脚んで發砲出すいざ來いきた  
れと一同に進む日本の艦かいな  
強ひ兵士は原田氏よ敵の守りを事とせず美事武運と

もろともに開く平壤門かいな  
昇る朝日の旗風に靡く清國豚尾漢四百餘州も我物と  
するわ雜作もないかいな  
敵の降参するまでわ飽迄貫ぬく大和魂陸と海との挾  
みうち進む海陸軍かいな  
守る所はみな負けて又と戦ふ意地さへもなみたと共  
に落て行く何たる弱虫連かへな

### 義太夫さありの部

泣顔日記

佐世保宿屋の段

泣き言ばなしも時の一興話して聞せ何とくハイ



よう聞ふて下さり升れ言葉にすがりれ明し申すも耻  
かしながら元豚尾は中國生れ賄賂出して兵士の身の  
上此年不時の鹿島立に困り果たる國人とためらふ間  
さへ夏の夜の短い命と知らない別れ心急ると旅路さへ  
思ふに任せぬ國の弱みあやふやに誘なわれ支那の空  
をあとにして海を越したる憂き思ひ敵勢遅しの伏兵  
にやましく兵は有りかから甲斐なき小筒に打ちかけ  
られ海へ逃れば敵方の傍へも寄れぬ砲丸づくめ避る  
真中を打れじと舳先を向けて數々の味方を見捨漕ぐ  
船に遁れて聞けば陸兵もあしたの芥子と散るかなし

さ旗も火薬も思ひすて何處でめぐり大砲の烟りをあ  
とに遠路や身の痛みさへ應へなく怖しくに氣を揉  
みちらし程も無いのに生捕りの中にさまよふ口惜さ  
は何時の世いかなる報わにて重ねくの不覺の數あ  
われみ給へとバアくの聲を放ちて嘆きける

支那姿女類似衣

李鴻章なげきの場

此頃は支那の兵何所に追われておようやら今更勝て  
ない事ながら私と云ふ者無いならば大綱さんも豚尾  
にめんじ誓なしたる此清國をどくにもゆるして下だ

さんしよ野ばん國の政治も直り國のめつばうも出來  
まへに思へばく此耶が昨年の平壤の敗軍に一層死  
でしもふたらこんな浮目も見まいものれ氣にうむ  
くと知りなから狡猾な耶がよく心ゆへ落城わぬがれ  
すども命にけびの無い様にと今迄いきたが最ふかな  
わぬ今の此身に比ぶれば一年先きに此耶が死ぬる覺  
悟が付なんだゆるしてたべ大縞さん私しや此様にれ  
がんで居るとくやみ涙わ雨あられ命を惜む降伏心皆  
弱虫の逃げたたく

菅原傳授

寺子屋の段

殘せし戎器は日本へ分捕四十余函の金銀迄捨て落城  
すると云ふ悲しい事が世にあるか備へるかまへも堅  
固ゆへ心ゆるして居た物を四面より攻め打たれ見苦  
しうまけたのが弱や阿果の不体裁何の因果で左寶貴  
迄死かした事ぞとせき上げてカツパと伏して泣きに  
ける

大津繪之部

大つよ武士

老耄くく李鴻章其兵うつちへ引てくれ支那兵わ吃愕  
仰天しイエくく引く事成りませぬ朝鮮に頼れた大事

の護衛兵まづくくれ先へれ引なさわやれくくしぶど  
か支那めと拔はなす劍のくもなく成勸で身体と首と  
の此世の別れの二ツ玉

廣島を船出して和國の姿わ目にもたつ軍服に身を堅  
め榮城わんに上陸し五日六日と日を重ね七日余りに  
威海衛を打敗り夫より分隊指揮して支那征伐も皆ん  
な義務ゆい嘘やれ骨も折れまじよが國乃爲じやと名  
を揚げくださんせ

暗乃夜に威海衛近く勇んで繰り出す日本兵黒けふり  
飛び出す鐵砲丸大筒小筒を打ちつゞけ支那兵營でわ

らんちき騒ぎ大將軍は深く隠れて果れ顔中にも負癖  
ついた弱虫唐人は首を抱へて豚乃尻尾クルくく捲い  
て浮雲いくく險呑たいト砲臺すてとかへし鐵砲皆  
なくく置て歸り行く

### 淺くとも替の部

「小さくとも強き日本の勝戦飛た數多の敵兵を殺して  
見たり珠數つなき國れ譽れぢやないかいな

「小さくとも膽は大きな我國の今度打入る兵卒は皆んな  
強いぢやないかいな

「廣くとも狭き心の支那の國出ると負けるは當前たか

告 廣



此書ヲ倭男子ト号晋ク  
 兒童婦女子ヲシテ忠實  
 武勇ヲ鼓舞シ愛國心ノ  
 發達ヲ計ルト共ニ海外  
 ニ向テ我が國威ヲ輝カ  
 シメンコトヲ計ルノ意志  
 ナレバ粹ニ遊ブノ雅君  
 ハ奮テ御製歌御投吟ア  
 ランコトヲ希

但シ三月中旬切

○御投吟有リシ諸君へハ御禮トシテ本書一部ツ、送呈仕候

○都々一  
 ○緑かいな  
 ○發句  
 ○義太夫さわり

○端歌  
 ○浅くとも  
 ○川柳  
 ○海安寺

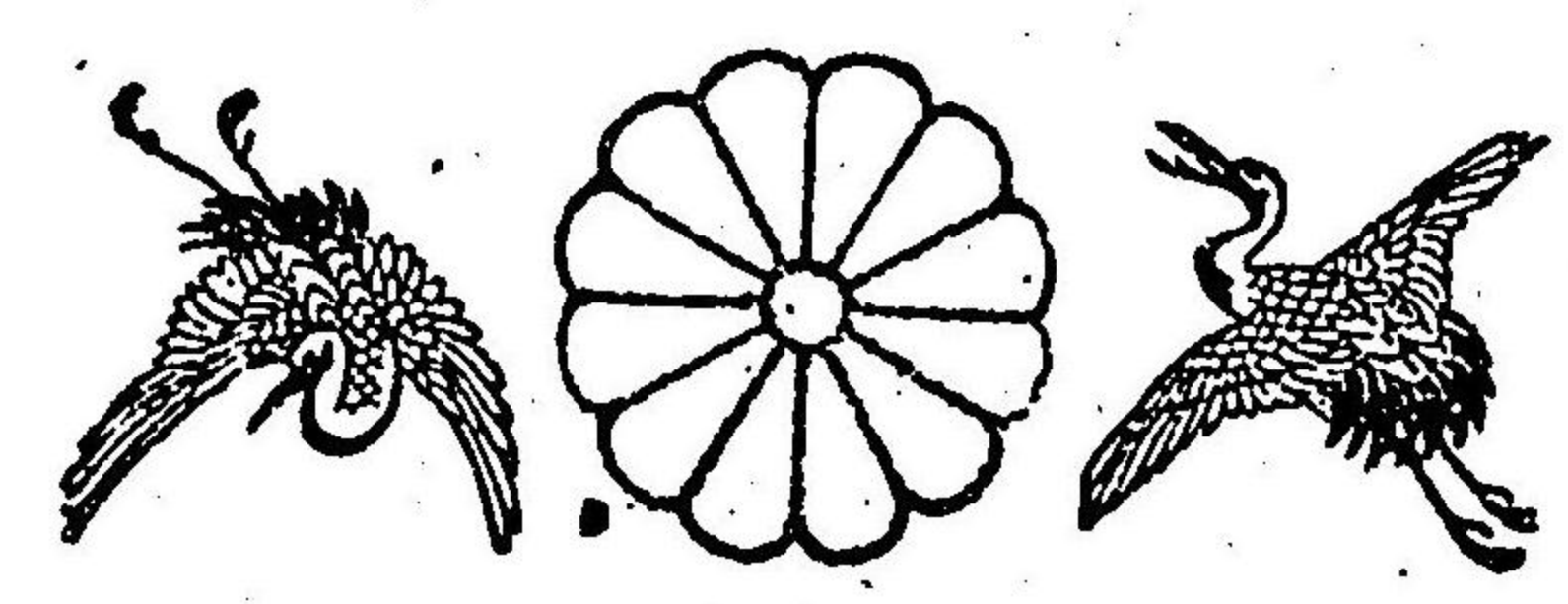
○大津繪  
 ○キンライク  
 ○壯士ぶし

討清歌出版元

静弘堂

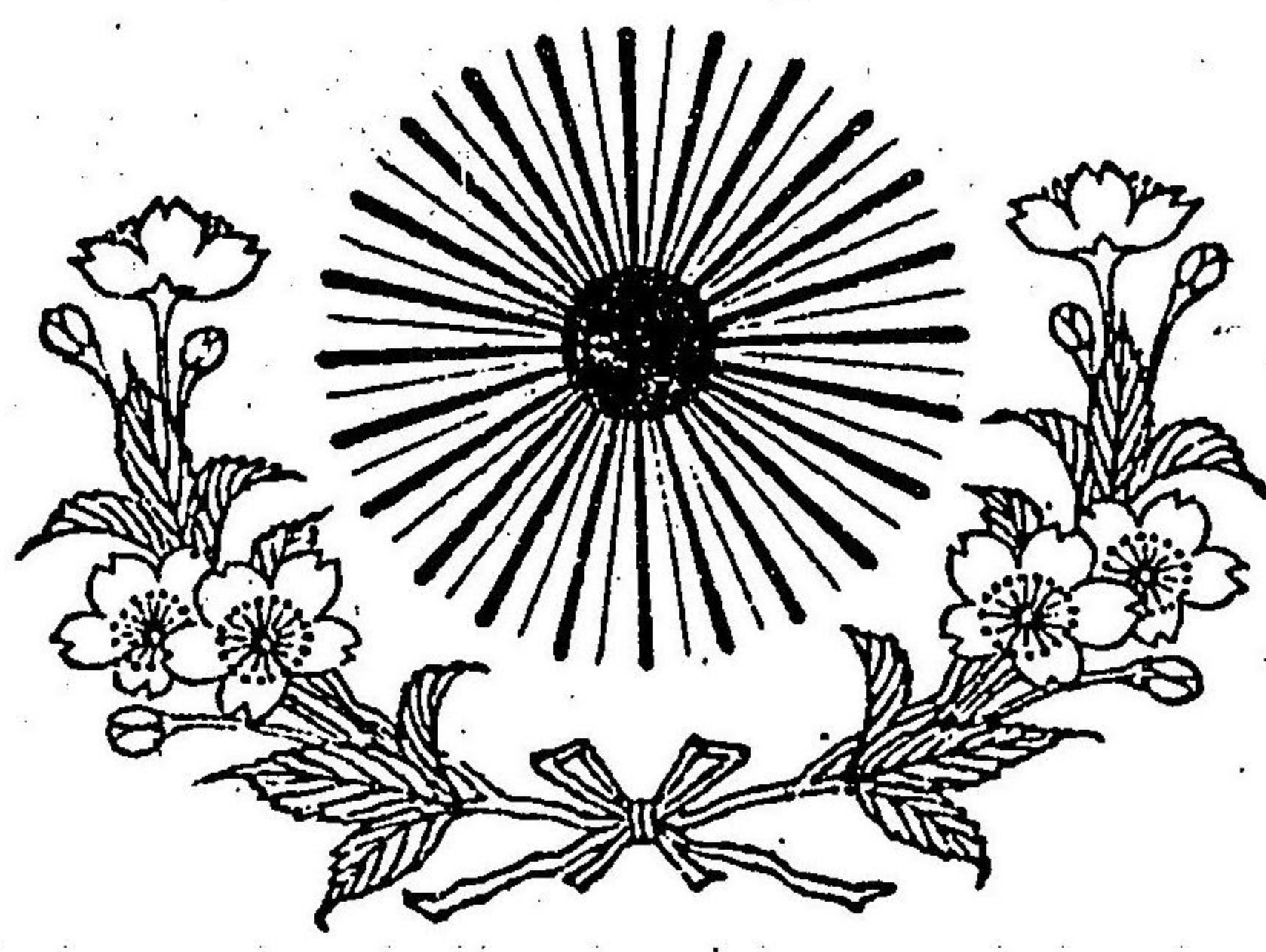
大澤屋 喜平

山形縣西田川郡鶴岡町五日町十六番地



大 勝 利  
 帝 國 萬 々 歲

三號日清交戰大和魂をわり



いあらしの木の葉武者  
 「太刀風にもろく切れる豚尾兵國をからどはよく附た  
 實に豆腐の様な兵

明治二十八年二月十五日印刷  
明治二十八年二月廿一日發行



定價六錢

山形縣西田川郡鶴岡町五日町  
十六番地

編輯兼發行者

柄澤常次郎

全縣全郡全町一日市町

印刷所

鶴鳴館

發賣元 靜弘堂

全縣全郡全町紙漣出甲四十二番地

印刷者

野澤嘉門